

世界は子どもに対する道徳的、法的責任への誓いを新たにしなければならぬ。10億人の子どもたちが貧困の中で、紛争下の国々で、あるいはHIV／エイズに苛まれたコミュニティで暮らし、子ども時代を奪われている。

THE STATE OF THE WORLD'S CHILDREN 2005

THE STATE OF THE WORLD'S CHILDREN 2005

危機に晒される子どもたち

世界子供白書2005

さら
危機に晒される
子どもたち



子ども時代 ■ 世界の子どもの人口：22億人 ■ 開発途上国の子どもの人数：19億人 ■ 貧困下で暮らす子どもの人数：10億人（子ども2人に1人） ■ 地域別の18歳未満人口：3億4,000万人（サハラ以南のアフリカ）；1億5,300万人（中東・北アフリカ）；5億8,500万人（南アジア）；5億9,400万人（東アジア・太平洋）；1億9,700万人（ラテンアメリカ・カリブ海）；1億800万人（中欧・東欧／独立国家共同体＝CEE/CIS）

■ **住居・水・保健ケア** ■ 開発途上国の子ども6億4,000万人には十分な住居がない（3人に1人） ■ 4億人は安全な水にアクセスできない（5人に1人） ■ 2億7,000万人は保健サービスにアクセスできない（7人に1人） ■ **教育・コミュニケーション・情報** ■ 学齢期の子ども1億2,100万人以上が学校に通っておらず、その過半数は女子である ■

事 実

100人あたりの電話機台数：162台（スウェーデン）；
* 158台（ノルウェー）；4台（南アジア） ■ 100人あたりのインターネット・ユーザー数：65人（アイスランド）；58人（リヒテンシュタイン）；57人（スウェーデン）；55人（韓国・米国）；51人（カナダ、デンマーク、フィンランド、オランダ）；2人（南アジア） ■ **生存** ■ フランス・ドイツ・ギリシャ・イタリアの5歳未満児総数：1,060万人 ■ 5歳未満で死亡した子どもの世界合計（2003年）：1,060万人（そのほとんどは予防可能であった） ■ 5歳未満で死亡する子どもの1日あたり人数（世界合計）：2万9,158人 ■ 安全な水と十分な衛生設備にアクセスできないために死亡する子どもの人数：3,900人（1日あたり）；140万人（年間） ■ 子どもが5歳未満で死亡する確率もっとも高い国10カ国（降順）：シエラレオネ、ニジェール、アンゴラ、アフガニスタン、リベリア、ソマリア、マリ、ブルキナファソ、コンゴ民主共和国、ギニアビサウ ■ **予防接種** ■ 3種混合ワクチンの接種を受ける乳幼児の割合：76% ■ 予防接種を受ける乳幼児の年間人数：1億人 ■ 定期予防接種によって生命を救えたはずの子どもの人数（年間）：220万人 ■ **栄養不良** ■ 低出生体重児の割合：32%（イエメン）；31%（スーダン）；30%（バングラデシュ）；30%（インド）；4%（スウェーデン） ■ 中度・重度低体重児（5歳未満）の割合：29%（サハラ以南のアフリカ）；14%（中東・北アフリカ）；46%（南アジア）；17%（東アジア・太平洋）；7%（ラテンアメリカ・カリブ海）；6%（CEE/CIS） ■ 重度低体重児（5歳未満）の割合：8%（サハラ以南のアフリカ）；2%（中東・北アフリカ）；16%（南アジア）；3%（東アジア・太平洋）；1%（ラテンアメリカ・カリブ海）；1%（CEE/CIS） ■ **平均余命** ■ 2003年に日本で生まれた子どもの平均余命：82歳；日本で5歳になる前に死亡した子どもの人数：5,000人 ■ 2003年にザンビアで生まれた子どもの平均余命：33歳；ザンビアで5歳になる前に死亡した子どもの人数：8万2,000人 ■ 平均余命の世界平均は過去30年間で7歳延びた（56歳から63歳） ■ 中東・北アフリカにおける1970年以降の平均余命の延び：16歳 ■ 1970年以降平均余命が短くなったアフリカ諸国の数：18カ国 ■ **HIV／エイズ** ■ 15～49歳の年齢層におけるHIV陽性の人々の割合：37.3%（ボツワナ）；38.8%（スワジランド） ■ HIV／エイズで親を失った子どもの世界合計：1,500万人；ドイツの子ども人口：1,520万人；英国の子

裏表紙内側に続く。

ども人口：1,320万人 ■ HIV陽性の子ども（14歳未満）の推定人数（サハラ以南のアフリカ）：190万人；スペインの5歳未満児人口：190万人 ■ 新規HIV感染者総数（2003年）：500万人；うち25歳未満の感染者数：250万人以上 ■ HIV／エイズとともに生きている人々の世界総数：3,800万人；うち15～24歳の年齢層の人数：1,000万人以上；このうち、女性の人数：620万人 ■ **HIV／エイズの治療コスト** ■ モザンビークでHIVに感染した成人の割合：12% ■ ジェネリック抗レトロウィルス治療薬の年間最低費用：約300ドル ■ モザンビークの1人あたり年間所得：210ドル ■ 抗レトロウィルス治療が必要であるにも関わらず受けられない開発途上国の人々の割合：93% ■ **紛争** ■ 1990～2003年に発生した大規模な武力紛争件数：59件；そのうち国家間の戦争をともなった紛争の件数：4件 ■ 世界の最貧国20カ国のうち過去15年間に大規模な内戦を経験した国の数：16カ国 ■ 1990年以降に紛争で死亡した子どもの推定人数：160万人 ■ 「典型的」な5年間の紛争における5歳未満児死亡率の上昇率（推定）：13% ■ 紛争や人権侵害によって家を離れることを余儀なくされた子どもの人数は米国の5歳未満児人口に匹敵する：2,000万人 ■ ルワンダで90日間に死亡した子どもの人数（1994年）：30万人；2003年にカナダで生まれた子どもの人数：31万9,000人 ■ 過去20年の間にイラクの子どもたちが武力紛争に巻きこまれた回数：3回（イラクの人口のほぼ半数は18歳未満） ■ イラクが国連の包括的制裁下に置かれた年数：12年 ■ 主にクラスター爆弾および内緒で廃棄された弾薬との関連で危険と判断される場所の推定数（バクダッド）：800カ所 ■ イラクの初等学校総数：1万4,000校；十分な上下水設備を持たないイラクの学校数：7,000校；安全な水が供給されないイラクの学校数：3,700校 ■ イラクの初等学校相当年齢の子どもに基礎学用品を提供するための費用：1人あたり5ドル ■ イラクの中等学校における女子の総就学率の対男子比：62%；世界平均：92% ■ **保護を奪う虐待** ■ 毎年人身取引の対象とされる子どもの人数はオーストラリアの5歳未満児の人口に匹敵し（120万人）、数十億ドル規模の商業目的の性産業で性的搾取の対象とされる子どもの人数はベルギーの子ども人口に匹敵する：200万人 ■ **世界にその意志があれば、貧困・紛争・HIV／エイズに終止符を打つことができる** ■ ミレニアム開発目標の数：8項目；子どもに関連する目標の数：8項目 ■ ミレニアム開発目標を2015年までに達成するために必要とされる追加費用の推定額：年間400～700億ドル；世界の軍事支出合計（2003年）：9,560億ドル ■ O E C D 開発援助委員会の構成国数：22カ国；国連が勧告する政府開発援助の対国内総所得比：0.7%；2002年にこの目標を達成した、または超過した国の数：5カ国 ■ 子どもの権利条約の批准国総数：192カ国；未批准国数：2カ国 ■ 武力紛争への子どもの関与に関する子どもの権利条約の選択議定書の批准国数：82カ国 ■ 子どもの売買、子ども買春および子どもポルノグラフィーに関する子どもの権利条約選択議定書の批准国数：83カ国

*統計表1～10（103～145ページ）、および第2～4章参照。

事 実*

世界子供白書 2005

**THE STATE OF THE
WORLD'S CHILDREN 2005**

謝 辞

本白書は、以下の国・地域のユニセフ現地事務所を含む多くの人々および機関・組織の助力を得て作成されたものである（英語名のアルファベット順）：アンゴラ、アルゼンチン、バングラデシュ、ベニン、ボリビア、ボツワナ、ブラジル、ブルンジ、カンボジア、カメルーン、中国、コロンビア、コートジボワール、コンゴ民主共和国、エルサルバドル、エチオピア、グルジア、ガーナ、グアテマラ、ガイアナ、インド、インドネシア、イラク、ジャマイカ、ヨルダン、レソト、マダガスカル、マラウイ、マレーシア、メキシコ、モンゴル、モザンビーク、ミャンマー、ネパール、ナイジェリア、パレスチナ自治区、パキスタン、パナマ、パプアニューギニア、パラグアイ、ペルー、フィリピン、ルーマニア、モルドバ、セネガル、セルビア・モンテネグロ、シエラレオネ、ソマリア、南アフリカ、スリランカ、スーダン、スリナム、東ティモール、タンザニア、ウルグアイ、ベネズエラ、ジンバブエ。以上のほかに、各ユニセフ地域事務所およびユニセフ・イノチェンティ研究所（イタリア）、ユニセフ物資供給センター（デンマーク）からも意見が寄せられた。

シルビア王妃（スウェーデン）、ビーナ・アガルワル博士およびジョゼフ・スティグリッツ教授の特別寄稿に心から謝意を表す。

2005年 世界子供白書
2005年 4月28日発行
著：ユニセフ（国連児童基金）
訳：平野裕二（財）日本ユニセフ協会広報室
発行：財団法人日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）
〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
電話 03-5789-2016 ファクス 03-5789-2036
Website: www.unicef.or.jp
©ユニセフ（国際連合児童基金）、2004

印刷：（株）第一印刷所

The State of the World's Children 2005
©United Nations Children's Fund (UNICEF), 2004
UNICEF, UNICEF House, 3 UN Plaza,
New York, NY 10017, USA
Website: www.unicef.org

この白書はユニセフ（国連児童基金）が2004年12月に発表し、平野裕二氏と（財）日本ユニセフ協会広報室が翻訳したものです。
本書の無断転載・複製はお断りいたします。
転載をご希望の場合は（財）日本ユニセフ協会広報室にお尋ねください。

この白書は再生紙を使用しています。

表紙写真：© UNICEF/HQ91-0914/Roger LeMoynes

世界子供白書 2005

THE STATE OF THE WORLD'S CHILDREN 2005

危機に^{さら}晒される子どもたち

ユニセフ（国連児童基金）事務局長
キャロル・ベラミー



目次

1 危機に晒される子どもたち

2 貧困下で暮らす子どもたち

まえがき コフィ・A・アナン 国連事務総長	vii
第1章	1
第2章	15
第3章	39
第4章	67
第5章	87
注	99
統計	103
統計目次	103
データについての 一般的留意事項	104
5歳未満児死亡率の順位	105
1. 基本統計	106
2. 栄養指標	110
3. 保健指標	114
4. HIV／エイズ指標	118
5. 教育指標	122
6. 人口統計指標	126
7. 経済指標	130
8. 女性指標	134
9. 子どもの保護指標	138
表中の国の分類	140
人間開発の進展を測る 表10について	141
10. 前進の速度	142
用語解説	146
ユニセフ本部と地域事務所	147

要約	1
パネル 世界は子ども時代の重要性を 認識しつつある	2
子ども時代のあるべき姿： 子どもの権利	4
保護的な環境	6
ミレニアム開発目標が達成できない場合： 子ども時代にとっての意味	8

図表 1.1 貧困・武力紛争・HIV／エイズが 子どもの生存を脅かしている	10
マップ 「1+1」が「2」に留まらないとき	12

要約	15
パネル 貧困は子どもたちから権利を奪う	17
子どもにとっての剥奪の操作的定義	19
子どもの福祉と母親の財産： ビナ・アガルワル博士特別寄稿	24
オポルチュニダーデス： ある貧困削減プログラムの成功	32

図表 2.1 開発途上国の子どもの深刻な剥奪状況 (剥奪の種類別)	19
2.2 開発途上国の子どもの深刻な剥奪状況 (地域別)	21
2.3 開発途上国の子どもの深刻な剥奪状況 (国の所得分類別)	23
2.4 OECD加盟国における 子どもの貧困	28
2.5 OECD加盟国における 社会支出と子どもの貧困	35

マップ 危機に晒される子どもたち： 貧困	36
---	----

CHILDHOOD



3 紛争に巻き込まれる子どもたち

要約 39

パネル

女子兵士：語られなかった物語 42

ウガンダの『夜間避難』児 48

戦争反対の課題（1996年） 50

シエラレオネの真実と和解：
子どもたちに発言の機会を 51

子どもの兵士の再統合：
アフリカ・アジアでの取り組み 53

紛争下・不安定な状況下にある
子どもたちに対する
ユニセフの主な活動 56

バック・トゥ・スクール：
複雑な緊急事態の中で
教育を保障する 59

危険な宿題：
留まるところを知らない暴力にも関わらず
学校に通うイラクの子どもたち 60

緊急事態における子ども参加：
子どもたちが道を切り開く 62

図表

3.1 激しい紛争が起きた回数
（1945～2003年） 40

3.2 大規模武力紛争の発生地 41

3.3 食糧危機の主な原因
（1986～2003年） 44

3.4 地雷：世界的実態 46

マップ

危機に晒される子どもたち：紛争 64

4 エイズ孤児と、HIV／エイズで弱い立場に立たされる子どもたち

要約 67

パネル

HIV／エイズの世界的脅威 68

HIV／エイズの「女性化」 70

HIV／エイズとともに生きる
子どもたち 74

抗レトロウィルス治療：
HIV／エイズとともに生きる
おとなと子どもの延命を図る 76

学校に行って未来を考える：
モザンビークでは容易ならざること 78

エイズ孤児と、HIV／エイズで弱い立場に
立たされた子どもたちのための
グローバル・キャンペーン 81

図表

4.1 東ヨーロッパ・中央アジアにおける
HIV新規感染件数（1993～2003年） 69

4.2 エイズ孤児
（サハラ以南のアフリカ） 70

4.3 親を失った子どもをケアする負担は
祖父母が負うようになりつつある 72

4.4 HIV／エイズがもっとも深刻な
サハラ以南のアフリカは、
親を失った子どもが増えている
唯一の地域である 73

4.5 HIV／エイズの影響を受ける子どもと
家族が直面する課題 73

4.6 2003年末現在の抗レトロウィルス薬の
利用状況（地域別） 75

マップ

危機に晒される子どもたち：
HIV／エイズ 84

5 すべての子どもに子ども時代を

要約 87

パネル

子どもの人身売買：
シルビア王妃（スウェーデン）
特別寄稿 90

開発に対する人権に基づくアプローチ：
ラテンアメリカの実例 92

中国の
「デジタル・ディバイド（情報格差）」 94

世界にその意志があれば、
子どもの貧困に終止符を打つことができる：
ジョゼフ・E・スティグリッツ教授
特別寄稿 96

UNDER THREAT

「すべての子どもの権利実現に
近づいたとき、各国は初めて
発展と平和を目指した目標に
近づくことができる」

コフィ・A・アナン

まえがき



© UNDP/Sergey Bormentev

21世紀によりよい世界を築くための青写真として、2000年にすべての国によって採択された「ミレニアム宣言」は、画期的な文書だった。それは、共通の価値観によって団結し、平和を達成するため、そしてすべての男女・子どもに人間らしい生活水準を保障するために奮闘する世界になってほしいという国際社会の願いを盛り込んでいた。このような世界では、子ども時代は私たち全員が実現したいと願う理想的な位置を占めている——それは、すべての子どもが健康であり、危害から守られるとともに、子どもがその可能性を十分に開花しつつ成長することができるよう、愛と慈悲に満ちたおとなが手助けしてくれる、そのような位置にほかならない。

しかし、『世界子供白書2005』が明らかにしているように、現実の世界に生きる20億人の子どもたちの半数近くにとって、子ども時代は私たち全員が望んでいる理想とは厳然と、そして残酷なまでに異なったものである。貧困は子どもたちの尊厳を否定し、その生命を脅かし、その可能性を制限している。紛争と暴力は子どもたちから安心できる家族生活を奪い、その信頼と希望を裏切っている。HIV／エイズは子どもたちの親、教師、医師・看護師の命を奪い、子どもたち自身の命をも奪っている。

これほど多くの子どもたちの子ども時代が危機に晒されている今、人類共通の未来もまた危機に晒されている。すべての子どもの権利実現に近づいたとき、各国は初めて発展と平和を目指した目標に近づくことができる。ミレニアム宣言の5年間の実施状況を検証するために2005年に参集する各国が、このことを念頭に置き、希望を現実に変えることができる遠大な決定を下すように希望するものである。

コフィ・A・アナン
国連事務総長